

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	朝のリレー 1時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 詩を通読する。 ・詩に登場する国や街がどんなところか、また、そこで、どんな人が何をしているのか、情景を想像しながら音読する。 2 詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 ・詩を読んで想像した情景や好きな言葉や表現などをグループで交流し、どのように音読すれば、詩のよさが伝わるかを相談する。 3 詩の特徴を生かして音読する。 ・詩のよさが伝わるように工夫して音読する。 ◇グループで分担し、「リレー」形式で読ませてもよい。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
言葉に出会うために				
4月	言葉に出会うために 野原はうたう 1時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	「言葉に出会うために」を読み、目次や「学習の見通しをもとう」を使って、中学校での国語学習の見通しをもつ。 1 国語で何を学ぶのかを考える。 ・「言葉に出会うために」を読み、国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 ◇今の考えを書き留めさせ、1年後にこの教材に立ち返ることで自己の変容を感じさせたい。 2 「野原はうたう」の二つの詩を通読する。 ・詩の作者である生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 ・詩に表現された語句の意味に注意する。 ◇気に入ったところに印をつけたり、線を引かせたりしながら読ませる。 ◇詩人・工藤直子さんの「野原はうたう」に込めた思いを紹介するとよい。 →DVD・二次元コード 3 速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを変えて音読する。 ◇声の強弱や間の取り方などを変えることで、印象が変わることに気づかせる。 4 学習を振り返る。 ・気に入ったところを、どのように音読したかをグループで話し合う。 ・詩を音読するとき、どんな工夫をするとよいか、「音読をするときには」に続く形で書く。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じ、音読のしかたを工夫している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
4月	声を届ける 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう 4時間(話聞②書②) ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりするこ	1-2 3 4	1 音読・発表のしかたを理解する。 ・「声のウォーミングアップ」をする。 ◇聞き手を意識し、速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さに気をつけさせる。 →DVD・二次元コード ・教科書を読み、音読・発表のしかたや日本語の音声の特徴について理解する。 2 ノートの書き方、工夫のしかたを理解する。 ◇小学校のときのノートの取り方と比較させる。 3 辞典・事典で言葉を調べる方法を理解する。 ・辞典・事典の種類と特徴を確認し、何を調べるときに役立つかを理解する。 4 「言葉の手帳」を作る。 ・印象に残った言葉や気になった言葉を、日付や感想とともに書き留めていくことを確認する。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →聞き手を意識して速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして声を届けようとしている。 【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>とに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>・最初の言葉を書き込み、その言葉との出会いや意味、使い方などを書いて、友達と交流する。</p> <p>◇線や矢印を使って類義語や対義語を書かせたり、用例を書かせたりしてもよい。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・相手に伝えるときに、どんなことに気をつけるとよいか、「声のウォーミングアップ」を通して気づいたことをまとめる。</p> <p>・友達とノートの交流をし、工夫できていることと改善点について話し合う。</p>	<p>考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)</p> <p>→これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。</p> <p>【態】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。</p>
1 学びをひらく				
5月	<p>シンシュン</p> <p>4時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1-2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」でねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 作品の全体像を捉える。</p> <p>・初読の感想を簡単にまとめる。(学習①-1)</p> <p>・登場人物は誰か、誰が語っているかを確かめる。(学習①-2)</p> <p>・作品を場面に分け、それぞれの内容をおおまかに捉える。(学習①-2)</p> <p>◇「誰が(誰と誰が) どうする(どうなった) 場面」という形で簡単にまとめさせる。</p> <p>3 場面の展開に沿って、二人の関係の変化を整理する。</p> <p>・二人の関係が読み取れる表現を、場面ごとに表にまとめる。(学習②-1)</p> <p>・二人の関係がどう変化していったのかを話し合う。(学習②-2)</p> <p>→P28^恣「場面の展開に着目する」</p> <p>→P264^資「文学的な文章を読むために」</p> <p>・「驚いた」などの心情を表す言葉を抜き出す。</p> <p>→P29^{言葉}</p> <p>4 読み深めた感想を交流する。(学習③)</p> <p>・読み深めた後の感想を200字程度でまとめる。</p> <p>・最初の感想と比べながら、どのように感想が変わったか、発表する。</p> <p>◇最後に作者のインタビュー動画を見せ、自分の感想と比べて、感じたことを発表させてもよい。</p> <p>→DVD・二次元コード</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・場面の展開に着目することで、何が捉えられたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・小学校で学習した物語や小説の一つ取り上げ、あらすじを発表する。</p> <p>→登場人物と、発端・山場・結末を意識してまとめる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)</p> <p>→場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。</p> <p>【態】場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。</p>
5月	<p>【聞く】</p> <p>情報を的確に聞き取る</p> <p>1時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うこ</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 情報を的確に聞き取る必要がある場面を挙げる。</p> <p>◇自分の体験などを基に、要点を押さえて書き留めることの大切さを理解させる。</p> <p>2 ①の連絡を聞き、メモを取る。</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>とができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>		<p>→DVD・二次元コード</p> <p>3 効果的なメモの取り方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①の連絡について、自分のメモと教科書の例を比べて、気づいたことを共有する。 ・「上達のポイント」でメモを取るときポイントを確認する。 <p>4 ②の連絡を開き、メモを取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送委員になったつもりで②の連絡を開き、必要な情報をメモに取る。 <p>→DVD・二次元コード</p> <p>◇3で確認した効果的なメモの取り方を、意識的に取り入れさせる。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取る意義や、効果的なメモの取り方について理解することができたか。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →日常の話題について、情報を整理し、聞き取る内容を考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →情報を的確に聞き取り、要点を押さえてメモしている。 <p>【態】進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。</p>
5月	<p>季節のしおり 春</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> ・桜にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ歌詞や詩、短歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 <p>◇P68「詩の世界」、P186「助言を自分の文章に生かそう」、P220「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→春に関わる言葉にふれ、それぞれの春の情景を想像している。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
5月	<p>情報整理のレッスン</p> <p>比較・分類</p> <p>1時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 学習の目的を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P32上段の導入の文章を読み、目的に合わせて情報を整理することの必要性を理解する。 <p>2 情報を比較・分類する方法を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①比較する(表)、②分類する(ラベリング)、③分類して比較する(ベン図)、④順序や流れを整理する(フローチャート)を確認し、情報整理の目的と、それに適した方法を理解する。 <p>◇図や表で整理された情報を見て気づいたことを、「比較に用いる言葉」や「順序を表す言葉」を使って発表させるとよい。</p> <p>3 問題1～2に取り組む。</p> <p>◇分類後、グループで考えを交流させ、目的さえ達成できれば、整理のしかたや観点の立て方は多様であってよいことに気づかせたい。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報はどのように整理するとわかりやすくなるか、目的ごとにまとめる。 <p>→P9「思考の地図」</p> <p>→P271[資]「情報整理の方法」</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準		
	<p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>		<p>割を果たしているか考える。 →P43^窓「段落の役割に着目する」 →P266^資「説明的な文章を読むために」 ・「これに対して」などに注目し、その前後の文や段落が、どのようにつながっているかを考える。 →P44^{言葉}</p> <p>4 考えたことを発表し合う。(学習③) ・わかりやすく説明するための筆者の工夫について、考えたことを発表する。 ◇題名の付け方、説明のしかた(問いと答え、比較、図など)に着目させるとよい。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・文章全体の中で、段落が果たす役割には、どのようなものがあったか挙げる。 ・わかりやすく説明するための工夫のうち、自分が文章を書くときに使ってみたいものを挙げる。</p>	<p>【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。</p>		
6月	<p>ちょっと立ち止まって 3時間</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・P50の吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。</p> <p>2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 ・全体を、大きく三つのまとまりに分け、本論を事例ごとのまとまりに分ける。(学習①-1) ・筆者の考え(結論)を基に、文章の要旨をまとめる。(学習①-2) →P50^窓「文章の構成に着目する」 →P266^資「説明的な文章を読むために」</p> <p>2</p>	<p>3 文章の構成に着目し、その効果を考える。 ・本論の図が何を述べるために示されているかまとめる。(学習②-1) ・結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。(学習②-2) ・「見る」ことに関する言葉を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理する。 →P51^{言葉}</p> <p>3</p>	<p>4 考えたことを伝え合う。(学習③) ・生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を発表する。 ◇最初にもった疑問は解決したか、また学習の前には気づかなかった、新たな発見や疑問があれば、友達どうして報告させるとよい。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・筆者は、なぜ私たちに「ちょっと立ち止まって、他の見方を試して」みることをすすめているのだろう。 →「ちょっと立ち止まって」という語句を使って書く。 ・要旨の捉え方についてわかったことを、自分の言葉でまとめる。</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の主張と事例との関係を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。</p> <p>【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
6月	<p>思考のレッスン1 意見と根拠 1時間</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 P52上段の導入の文章を読み、意見の根拠を確認することの大切さを理解する。</p> <p>2 説得力のある根拠について考える。 ・教科書を閉じ、P52中段 A・B の生徒の意見の根拠についてどう思うか考える。 ・説得力のある根拠について話し合う。 ・問題1に取り組み、説得力が弱いと感じるところを挙げ、何が問題かを考える。</p> <p>3 意見と根拠の結び付きを考える。 ・教科書を閉じ、P53中段の二つの意見について、意見と根拠をつなぐ考えを推測する。 ・問題2に取り組み、省略されている意見と根拠をつなぐ考えを推測する。</p> <p>4 学習を振り返る。 ・意見を聞いたり、伝えたりするときのポイントを確認する。</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →説得力のある根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。</p>
6月	<p>話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する 4時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1 2 3-4	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 話題を決め、材料を選ぶ。 ・「自分の好きなこと(もの)」の中から、紹介したい話題の一つを選ぶ。 ・話そうと思っている内容について、友達に相談し、みんなに楽しんでもらえそうな材料を選ぶ。 →P272資「発想を広げる」</p> <p>2 話の構成を考える。 ・聞き手にとってわかりやすい話の順序を考え、制限時間に収まるように材料を取捨選択する。 ◇1分を目安に内容を整理させる。 ・構成案を基に、スピーチメモを作る。 →P56「スピーチメモの例」</p> <p>3 スピーチの練習をする。 ・友達どうしで練習し、互いの改善点を助言し合う。 →P57窓「魅力的なスピーチをするために」 ◇話の内容・構成、声の大きさ・速さ・間の取り方を意識させる。</p> <p>4 スピーチの会を開く。 ・順番を決め、スピーチの会を開く。 ・視線を前に向け、聞き手の反応を見ながら話す。 →DVD・二次元コード ◇勇気を出して伝えたいことを届けようとする姿勢を大切にさせたい。 →P57「達人からのひと言」</p> <p>5 学習を振り返る。 ・聞き手にとってわかりやすく、魅力的なスピーチをするために、どんなところに気をつけたか。 ◇P55「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p> <p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →聞き手を意識して話題を決め、話の内容を選んで整理している。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。</p> <p>【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。</p>
6月	<p>漢字に親しもう2 1時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。ま</p>	1	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P258「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P302資「一年生で学習した漢字」 →P317資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	た、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		◇P255「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	→小学校で学習した漢字の熟語を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
6月	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P59の導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 2 P238-241文法1「言葉の単位」を読む。 ・「文法とは」を読み、文法の定義を理解する。 ・「言葉の単位」を読み、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いと各々の特徴を理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ・P239「読むことに生かす」を読み、段落に着目して読むことで、説明的な文章の内容や構成が捉えやすくなることを理解する。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。

情報社会を生きる

6月	情報を集めよう 情報を読み取る 情報を引用しよう 3時間(読①書②) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べる内容を絞り込む ・言葉の何について調べるかを焦点化する。 ◇調べたいことを「問い」の形にさせるとよい。 2 調べ方を考え、情報を集める ・P61下段「やってみよう」に示された項目の調べ方を考え、その方法で有効な情報が得られるかどうか、学校図書館で確かめる。 ◇本の探し方や、本や事典、新聞から情報を集める方法を理解させる。 ◇インターネット検索の方法と留意点を確認させる。 ・自分が決めたテーマについて、どのように調べるのがよいかを考え、実際に情報を集める。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ →グラフや文章の中の情報を関連づけて情報を整理し、引用のしかたや出典の示し方を理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →必要な情報に着目して要約し、内容を理解している。 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。
		2	3 情報を読み取る ・グラフの種類や特徴、情報を読み取る方法を理解し、グラフを読むときの留意点を確認する。 ・P63「やってみよう」で、複数のグラフや文章の中の情報を関連づけながら読み解く。	
		3	4 情報の適切な引用のしかたを考える。 ・集めた情報を適切に引用しながら、わかったことや考えたことをまとめる。 ・出典の示し方に注意して「参考文献」を書く。 ◇P64の資料 A・B とP65を参考にさせる。 5 著作権について知る。 ・著作権の定義や、著作者の許可が必要ない場合について確認する。 6 学習を振り返る。 ・興味・関心のあるテーマを挙げ、どんな情報の調べ方が適しているかを考える。 ・どんな情報を伝えるのに、どんなグラフが示されているか、本や新聞から探して話し合う。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
3 言葉に立ち止まる				
7月	<p>詩の世界</p> <p>【書く】詩を作ろう</p> <p>3時間(読②書①)</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	1-2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を調べる。 <p>2 詩を読んで、感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからないと思った事柄や言葉。(学習①-1) ・美しさやおもしろさを感じた事柄や言葉。(学習①-2) <p>3 描かれた情景や表現の効果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの詩に描かれている情景。(学習②-1) ・それぞれの詩で、最も印象に残った表現とその効果。(学習②-2) <p>◇友達の見解との共通点や相違点を確認させる。</p> <p>4 詩のよさを発表する。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三編の中で最も心に響いた詩はどれか。どんなところによさを感じたのか、発表する。 <p>3</p> <p>5 三編の詩の表現を参考にして、詩を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例を参考に題材を考える。 ・印象に残った表現や例を参考にして、詩を書く。→P224「さまざまな表現技法」 ・読み合って感想を伝え合う。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩を読み深めるためには、どんなことに注意して読むといいか、「詩を読み深めるためには」に続くように書く。 ・詩を作るときに、表現で工夫したこととその効果をグループで共有する。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)→詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)→表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)→詩に描かれている情景を想像し、表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)→自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 <p>【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもつて詩を創作しようとしている。</p>
7月	<p>比喩で広がる言葉の世界</p> <p>2時間</p> <p>◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 <p>2 段落の役割を押さえて読み、内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「比喩」が、文中で、どのように定義されているかを確認する。(学習①-1) ・筆者が挙げている比喩の二つの効果を具体例とともにまとめる。(学習①-2)→P224「さまざまな表現技法(比喩)」 <p>2</p> <p>3 言葉について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P76の図を説明し、比喩を使うかどうかで、表現にどんな違いが出るかを考える。(学習②-1) ・身の回りにある「比喩の発想」が生かされた言葉を見つけて、友達に報告する。(学習②-2) <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比喩について理解し、言葉について考えを深めたことをまとめる。 	<p>【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)→文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)→各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。</p> <p>【態】進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
7月	言葉 1 指示する語句と接続する語句 2時間 ◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 導入の課題に取り組み、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 ・教科書の表を基に、指示する語句(「こそあど言葉」)の種類を把握する。 ・例を基に、前後の文をつなぐ働きを理解する。 3 接続する語句について理解する。 ・教科書の表を基に、接続する語句の働きによる分類を理解する。 ・例を基に、接続する語句には書き手や話し手の気持ちが反映されることを知る。 4 学習したことを日常につなぐ。 ・「読むことに生かす」を読み、指示する語句や接続する語句に着目することで、文章の展開や構成をつかむ手がかりになることを理解する。	【知・技】 指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ) →指示する語句と接続する語句の役割を理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
7月	言葉を集めよう もっと「伝わる」表現をみざして 1時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 学習の目的を理解する。 ・リード文を読み、豊かに表現するためには、語句の量を増やす必要があることを理解する。 2 友達に紹介したいものを決める。 3 観点を決めて、言葉を集める。 ・P80のマッピングを参考に、観点を決め、思いつく言葉を挙げる。 ・挙げた言葉について、似た意味の言葉や修飾する言葉を考える。 ◇国語辞典や類語辞典を活用させるとよい。 4 100字程度で紹介文を書く。 ・読み手が、そのよさや様子を具体的に想像できるように、言葉の選び方を工夫して書く。 →P81「紹介文の例」「程度を表す言葉」 →P300[窓]「語彙を豊かに」 5 学習を振り返る。 ・読み手に伝えるときに、どんな表現が具体的に想像しやすかったか。「言葉の選び方」について気づいたことを話し合う。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →言葉を集め、似た意味の言葉や修飾する言葉を考え、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
読書生活を豊かに				
7月	読書を楽しむ 1時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 ・本を読んだ後、記録をしたり、友達に紹介したりする学習活動について理解する。 2 「ポップ作り」、「読書掲示板」、「読書記録」の中から、夏休みに行く活動を選ぶ。 →P20「続けてみよう」 ◇学校や地域の状況に応じて、指導者が活動を決めてもよい。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 ・ポップは、読書記録を基に本を決め、必要な情報を選択して、本の魅力が伝わるように紹介する。 ・読書掲示板は、選んだ生徒どうしで、感想を交流する本を一冊決めて感想を付箋などに書く。 ・読書記録は記録のしかたを確認する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。 4 ポップ、読書掲示板用の感想、読書記録を提出する。 ・それぞれの活動で作成したポップや感想、記録した読書ノートなどを夏休み明けに提出する。 ◇完成物は、教室や学校図書館に展示するとよい。	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 【態】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>◇次時の「本の中の中学生」と合わせて指導することも考えられる。</p> <p>→P84「本の中の中学生」</p> <p>→P190「考える人になろう」</p> <p>→P90, 194「本の世界を広げよう」</p>	
7月	<p>本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の魔女が死んだ ブラインドの向こうに見える光 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い 1時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめる。(思・判・表C(2)ウ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1「本の中の中学生」の三編の作品を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。 ・「本の中の中学生」の三編の作品の中から気に入った作品とその理由を友達と共有する。 <p>◇学校図書館や地域の図書館に行き続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。</p> <p>2 学校図書館などを利用して、「本の中の中学生」というテーマで一冊選び、推薦文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生が登場する小説や実在の人物の中学時代を描いたノンフィクションなどから一冊選ぶ。 <p>◇なかなか一冊を選べない生徒には、教科書の三編の続きを読ませ、推薦文を書かせてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示したり、スピーチをしたりして、感想を付箋に書き、友達と交流する。 <p>→P92「私の一冊」</p> <p>→P93「本との出会い」</p> <p>◇前時の「読書を楽しむ」と合わせて指導することも考えられる。</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)</p> <p>→読書が、知識を得たり、新しいものの方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)</p> <p>→文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。</p> <p>【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。</p>
7月	<p>季節のしおり 夏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> ・風まつわる言葉や夏の情景を詠んだ詩、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 <p>◇P68「詩の世界」、P186「助言を自分の文章に生かそう」、P220「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→夏に関わる言葉にふれ、それぞれの夏の情景を想像している。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4 心の動き				
9月	<p>大人になれなかった弟たちに…… 4時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる(思・判・表C(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 ・「母」が食べ物をあまり食べなかったり、「僕」が「ヒロユキ」のミルクを盗み飲みしてしまったりした理由を確かめる。(学習①-1) ・提示された部分から「僕」や「母」の気持ちを考える。(学習①-2) →P104窓「描写に注目する」 →P264資「文学的な文章を読むために」 ◇提示された部分以外にも、登場人物の心情がわかる描写に線を引かせ、心情を考えさせる。</p> <p>3 3 題名のもつ意味について考える。(学習②) ・作品の時代背景を踏まえて、題名のもつ意味について話し合う。</p> <p>4 表記に込められた、作者の意図を考える。 ・「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」を片仮名表記にした、作者の意図を考える。 →DVD・二次元コード →P105言葉</p> <p>4 5 思いを伝える朗読会をする。(学習③) ・読み取ったことを踏まえ、場面の様子や登場人物の心情がより伝わるように読む。 ◇出典の絵本もあわせて提示するとよい。 →P103広がる読書</p> <p>6 学習を振り返る。 ・描写に着目することで、どんなことが読み取れたか、自分の言葉でまとめる。 ・関連する本を読んで、さらに考えが深まったことを挙げる。</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動や心情の変化を捉えている。</p> <p>【態】登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。</p>	
9月	<p>星の花が降るころに 5時間</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード(銀木犀)</p> <p>2 「私」を中心に作品の内容を押さえる。 ・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品をいくつかの場面に分ける。(学習①-1) ・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。(学習①-2)</p> <p>3-4 3 場面や描写を結び付けて読む。(学習②) ・提示された場面や描写を比べることで、どんなことが読み取れるか、話し合う。 →P114窓「場面や描写を結びつけて読む」 →P264資「文学的な文章を読むために」 ・「雪が降るように」のように、様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。 →P115言葉</p> <p>5 4 印象に残った場面や描写を語り合う。(学習③) ・印象に残った箇所やその理由をグループで述べ合う。</p>	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。(1)オ →様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どのような情景や気持ちをたとえているのか考えている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。</p> <p>【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。 ・読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて書く。 	
9月	<p>聞き上手になろう 質問で話を引き出す 1時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 きき方の工夫や質問の種類を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「林さんの話」を聞く(P116右下を読んでもよい)。 →DVD・二次元コード ・P117の「きき方の工夫」と「質問の種類」を読み、林さんへの質問を考える。 ◇「絞る質問」から「広げる質問」の順に挙げさせるとよい。 ◇P117の説明に合わせて、「質問のしかた」を視聴させるとよい。 →DVD・二次元コード <p>2 「夏休みのいちばんの思い出」をテーマに、対話の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人一組になり、話し手と聞き手に分かれる。 ・話し手がテーマについてスピーチをする。 ・聞き手はきき方や質問のしかたを工夫し、質問で話を引き出す。三往復以上のやり取りをする。 →p116窓「質問で話を引き出すには」 ・役割を替えて繰り返す。 <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようにきき方の工夫をしたか、また話し手にどんな質問をし、どんなことを引き出せたか。聞き上手になるための秘訣をまとめる。 	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)</p> <p>→話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)</p> <p>→話し手のスピーチに耳を傾け、聞いたことを基に、質問のしかたを工夫して聞き、対話をしながら話を十分に理解しようとしている。</p> <p>【態】進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。</p>
9月	<p>項目を立てて書こう 案内文を書く 2時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 案内文の書き方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校で配布された「お知らせ」や、行事のポスターなど、身の回りの案内文を参考にさせる。 →P276「手紙の書き方」 <p>2 案内する事柄と相手を決め、情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P119の合唱コンクールの案内を参考に考える。 ◇相手の立場に立って情報を選び、項目を立てて整理させる。 →P118窓「わかりやすい案内文を書くには」 <p>2 3 案内文を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇相手にわかりやすいよう、項目の順序や表現を工夫させるとよい。 →P120「読み手の立場に立つ」 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した案内文について、友達と工夫したところを伝え合い、改善点を助言し合う。 	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理して案内文を書いている。</p> <p>【態】集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書くようとしている。</p>
9月	<p>【推敲】読み手の立場に立つ 1時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P119の案内文を参考に、P120の地域の人に向けた体育祭の案内を書き改める。 ・必要に応じて情報を補ったり、削ったりする。 	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★行事の案内を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>		<p>→P275「文章の推敲・原稿用紙の使い方」</p> <p>2 書きかえた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。</p> <p>◇大事な情報が抜け落ちていないか、確認をさせる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・案内文の推敲で、どんなことが大切かまとめる。</p>	<p>→正確でわかりやすい表現に書き改めている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>→読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかなどを検討している。</p> <p>【態】粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。</p>
10月	<p>言葉2 方言と共通語</p> <p>2時間</p> <p>◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1-2	<p>1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。</p> <p>2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。</p> <p>・語句・表現・文法・発音の違い。</p> <p>・共通語の必要性。</p> <p>3 P122「生活に生かす」を読み、方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について理解する。</p>	<p>【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ)</p> <p>→共通語と方言の役割や特徴について理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。</p>
10月	<p>漢字2 漢字の音訓</p> <p>1時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入部分を読み、漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。</p> <p>2 「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。</p> <p>・複数の読みがある漢字や熟語について考える。</p> <p>3 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組み。</p> <p>→P19「言葉を調べる(漢和辞典)」</p> <p>→P302【資】「一年生で学習した漢字」</p> <p>→P317【資】「一年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
5 筋道を立てて				
10月	<p>「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ</p> <p>4時間</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>◇P129の二次元コードを使って、シジュウカラの鳴き声を聞かせ、興味づけを図るとよい。</p> <p>→DVD・二次元コード</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて、理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)</p>
		2	<p>2 文章の構成と内容を捉える。</p> <p>・本文を5つの部分に分ける。(学習①-1)</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	3 4	<p>・筆者がどのような事実を基に、どのような仮説を立てたかを確かめる。(学習①-2)</p> <p>◇事実を示す文末表現と、仮説を述べるときの文末表現の違いに着目させるとよい。</p> <p>・「仮説・仮定・予想」「検証・証明・裏づけ」の言葉の意味や使い方の違いを考える。</p> <p>→P135[言葉]</p> <p>3 論の展開に着目し、その効果を考える。</p> <p>・仮説の検証1・2について、観点を立てて、表にまとめる。(学習②-1)</p> <p>・なぜ仮説が証明されたといえるか、表を基に話し合う。(学習②-2)</p> <p>◇P131実験の様子について、動画を見せるとよい。</p> <p>→DVD・二次元コード</p> <p>◇仮説1の検証結果から、さらに疑問が生まれ仮説2が生まれ、という展開になっていることに気づかせる。筆者が「事実」をどう解釈して意見へと展開しているのか、形式段落の冒頭や文末表現に着目させ、読み取らせるとよい。</p> <p>4 結論に説得力をもたせるために、どのような工夫をしているか、本文の記述や図表などを根拠として、自分の考えを文章にまとめる。(学習③)</p> <p>→P134[窓]「構成や展開の効果を考える」</p> <p>→P266[資]「説明的な文章を読むために」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・筆者の論の展開の特徴を説明する。 →「事実と意見」という言葉を使って書く。</p> <p>・説得力のある文章を書くために使ってみたい工夫を挙げる。</p>	<p>→筆者の意見と、それを支える根拠との関係を考えている。</p> <p>【態】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
10月	<p>思考のレッスン2 原因と結果 1時間</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 P136の例題や問題1から、原因と結果を抜き出し、どのようにつながっているかを整理する。</p> <p>・原因と結果を表す言葉を例文から抜き出す。</p> <p>◇例文に線を引かせる。教科書の類題を準備し、練習させ定着させるとよい。</p> <p>2 P137の例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。</p> <p>・「単なる偶然」「逆の因果関係」「疑似関連」について、筋道の上での問題点を指摘する。</p> <p>◇「単なる偶然」である理由や、「原因と結果が逆」である理由を説明させたり、「隠された別の要因」は何かを指摘させたりするとよい。</p> <p>→他[地理]の気候帯は相関関係、歴史の出来事は因果関係で説明できることにふれる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・話の筋道を理解するには、原因と結果の関係を捉えることが大切だということを確認する。</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→原因と結果がどうつながっているか整理し、二つの関係について理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。</p>
10月	<p>根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く 5時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になる</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 課題を決め、調査を行う。</p> <p>・中学生に関する調査の課題を決める。</p> <p>・課題に対して仮説を立て、仮説を証明する方法を考えて調査項目を決め、調査する。</p> <p>→P272[資]「発想を広げる」</p> <p>→P274[資]「アンケート調査の方法」</p> <p>◇「仮説」の意味がわからない生徒には、『言葉』</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、書く内容の中</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>ように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>2-3</p> <p>4-5</p>	<p>をもつ鳥、シジュウカラ」での学習を想起させる。 →P135「学習で用いる言葉」</p> <p>2 調査結果を整理し、構成を考える。 ・調査結果を整理し、得られた情報を正確に捉えて分析し、そこから何がいえるかを考える。 ・書く内容を決め、全体の構成を考える。 ◇P32「情報整理のレッスン 比較・分類」を再読し、情報の分類・比較のしかた、順序や流れの整理のしかたを確認させたい。 ◇『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」での学びを生かし、調査の結果と、結果に基づく考察・解釈のつながりを確かめさせるとよい。 →P134[窓]「構成や展開の効果を考える」</p> <p>3 図表などを引用してレポートを作成する。 ・自分の考えに説得力をもたせるために資料を引用し、レポートの構成に沿ってまとめる。 →P141[窓]「根拠を明確にして自分の考えを伝えるには」 ◇P142「統計資料の例」にある資料を使ってまとめさせるとよい。 ◇P140「レポートの例」を参考に、レポート完成のゴールイメージをもたせるとよい。 ◇引用のしかたや出典の示し方を確認させる。 →P64「情報を引用しよう」 →P143「達人からのひと言」 →[他]理科:レポート/社会:報告文</p> <p>4 レポートを読み、評価し合う。 ・レポートの内容や構成、文章や図表の引用のしかたなどについて、説得力があると思った点や、もっと詳しく知りたいと思ったことを伝え合う。 ◇学習の導入時に、評価の観点や到達ラインを示しておく、学習への意欲も高まりやすい。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・根拠を明らかにして、説得力のある文章を書くことができたか。 ・さまざまな情報を整理できたか。 ◇P139「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p> <p>→自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考えている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の考えを裏づける資料やデータを選び、アンケートで得られた情報を適切に関連づけて、考察を導き出している。</p> <p>【態】文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。</p>
10月	<p>漢字に親しもう3 1時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P258「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P302[資]「一年生で学習した漢字」 →P317[資]「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P255「[練習]小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
10月	<p>【話し合い】</p> <p>話し合いの展開を捉える</p> <p>1時間</p> <p>◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 教材文を読み、「登山研修の思い出」についての展示内容の話し合いであるという目的を確認する。</p> <p>2 話し合いの例文を聞き、空欄①②に当てはまる言葉を検討する。 →DVD ◇「上達のポイント」を参照しながら、考えさせるとよい。</p> <p>3 学習を振り返る。 ・話題や流れを捉えて議論するためには、どのようなことに気をつければよいか、考えることができたか。</p>	<p>【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →「上達のポイント」にある「根拠を述べる」「前の人の意見を受けて話す」「自分の意見と比較しながら聞く」「意見を整理する」「話がそれたときは元の話に戻す」を理解している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話題や展開を捉えながら話し合うために気をつけることを理解し、課題に沿って発言内容を考えている。</p> <p>【態】進んで話題の展開を捉え、学習課題に沿って話し合いにおける発言のしかたについて考えようとしている。</p>
11月	<p>話題や展開を捉えて話し合うグループ・ディスカッションをする</p> <p>4時間</p> <p>◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)</p>	1 2-3 4	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 話し合いの話題を決め、目的を明確にする。 ・例を参考に、話し合いの話題を決める。 ・何を目標として話し合うのかを明確にする。 →P272 窓「発想を広げる」</p> <p>2 自分の考えをまとめる。 ・自分の意見を付箋や小さなカードに書き出し、それぞれの意見の根拠を考える。</p> <p>3 司会と書記を決め、グループで話し合う。 ・話題と目的を確認し、意見を出し合う。 ・模造紙や付箋紙を使って、出し合った意見を整理し、結論をまとめる。 →DVD・二次元コード →P149 窓「話題や展開を捉えて話し合うためには」 ◇P148下段「共通点や相違点を見つけて、分類する」をあらかじめ示し、話し合いの進め方を理解させるとよい。 →P32「情報整理のレッスン 比較・分類」</p> <p>4 話し合いの結果を報告する。 ・結論とその根拠をクラス全体に伝える。 ・結論が出なかった場合にも、どこまで決まったかを伝える。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・話題や展開を捉えながら話し合うことができたか。 ・互いの発言を結び付けて考えをまとめることができたか。 ◇P147「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けながら考えをまとめている。</p> <p>【態】積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。</p>
11月	<p>音読を楽しもう 大阿蘇</p> <p>1時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにするこ</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 ・繰り返しの表現や、繰り返しながら変化していく表現などに注目する。 ・新出漢字を調べる。 ◇阿蘇の風景を動画や静止画などで見せるとよい。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の言葉がどのように使われているか考えて、朗読をしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	とができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)			の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →繰り返しの表現や繰り返しながら変化している表現などに着目しながら考えている。 【態】進んで表現の効果について考え，今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11月	季節のおしり 秋 ・事象や行為，心情を表す語句の量を増すとともに，語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)	-	・月にまつわる言葉や，秋の情景を詠んだ俳句や和歌，小説の一説を味わい，伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P68「詩の世界」，P186「助言を自分の文章に生かそう」，P220「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し，交流することもできる。	【知・技】事象や行為，心情を表す語句の量を増すとともに，語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →秋に関わる言葉にふれ，それぞれの秋の情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして，積極的に語感を磨き，言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心にふれる				
11月	音読を楽しもう いろは歌 古典の世界 1時間 ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り，古文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。(知・技(3)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)	1	1 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 →DVD・二次元コード ・三段目の現代語訳と関連付けながら読む。 ◇七五調の「今様」であることにふれるのもよい。 2 P156「古典の世界」を読み，3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語，随筆など，3年間でさまざまな古典作品にふれることを知る。	【知・技】 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り，古文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しんでいる。(3)ア →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし，古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 【態】古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り，今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。
11月	蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から 4時間 ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り，古文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，	1	【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し，学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・古典の文章を，リズムを味わいながら繰り返し音読する。(学習①) →DVD・二次元コード ・新出漢字を調べる。 ◇小学校の高学年で，「竹取物語」冒頭部分は既に学習していることを踏まえる。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り，古文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しんでいる。(3)ア →音読に必要な文語のきまり，古文特有のリズムについて理解し，その世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において，場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えている。(C(1)イ) →「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目して読み，現代の自分たちと比べ，古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えている。
		2	2 古典の文章について，現代の文章との違いを確かめる。(学習②) ・仮名遣いの違いを確かめる。 ・文末の言葉の違いを確かめる。 ・現代とは違う意味で使われている言葉や，現代では使われなくなった言葉の意味を確かめる。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	3-4	<p>→P169「古典の言葉」</p> <p>3 描かれている古典の世界を想像する。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動を書き出し、現代の自分たちの考えや行動と通じるところを探す。 <p>◇P166「貴公子たちの失敗談」は、内容にちなんだ言葉遊びで締めくくられている。現代でも、言葉遊びが社会のさまざまなところで使われていることに気づかせたい(例:商品名など)。</p> <p>◇「竹取物語」はさまざまな形で表現されている(P165)。表現の媒体により、どのような魅力がより強く伝わるかを考える学習も想定できる。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の文章と古典とを比べ、どんな違いに気がついたか挙げる。 ・古典の物語を読んで、興味をもったことや、もっと知りたいことを、友達と伝え合う。 	<p>【態】進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。</p>
11月	<p>今に生きる言葉</p> <p>【書く】故事成語を使って体験文を書こう</p> <p>2時間(読①書①)</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★本や資料から文章を引用して説明するなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。(学習①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「矛盾」上段の漢文を繰り返し音読し、読み慣れる。 <p>→DVD・二次元コード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を調べる。 <p>→P174「漢文を読む」</p> <p>2 本文を読み、故事成語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「矛盾」がどんな故事に由来し、どんな意味で使われるようになったかを説明する。(学習②-1) ・「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の言葉の意味や、基になった故事を調べる。(学習②-2) <p>◇漢和辞典、故事成語辞典、国語便覧等を使用させるとよい。</p> <p>→P19「言葉を調べる」</p> <p>2 3 故事成語を使って、体験文を書く。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順に沿い、「矛盾」と自分の体験を結び付けた短い文章を書く。 <p>→P173「故事成語を使って体験文を書こう」</p> <p>◇体験文を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う活動も積極的に取り入れたい。</p> <p>◇体験と故事成語が一致しない生徒がしばしばいる。5W1Hで体験を整理させ、具体的な状況が故事成語と重なるように指導するとよい。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の中で気づいた、漢文独特の言い回しを挙げる。 ・挙げられている故事成語は、日常生活の中でどのように使われているか考える。 	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</p> <p>→音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) →「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味に使われるようになったか説明している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →「矛盾」と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。 <p>【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。</p>
7 価値を見いだす				
12月	<p>「不便」の価値を見つめ直す</p> <p>【書く】根拠を明確にして、意見をまとめよう</p> <p>4時間(読③書①)</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読し、内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・筆者の定義する「不便益」を確かめる。(学習①-1) ・「不便のよい面」「便利の悪い面」について整理する。(学習①-2) 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>技(2)ア)</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	2-3	<p>◇P178「図1②」に、筆者の事例を書き込ませるなどして、整理させるとよい。</p> <p>→P185「言葉」</p> <p>2 筆者の考えを要約する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んだことがない人に説明するつもりで、筆者の考えを200字程度で要約する。(学習②-1) <p>→P184「窓」「目的に応じて要約する」</p> <p>→P266「資」「説明的な文章を読むために」</p> <p>◇文章の要点や核(キーワードや大切な段落、まとまりの中心となる文)を抜き出させるとよい。</p> <p>◇まとめの言葉(つまり、このように)を手がかりとして探す方法を示してもよい。</p> <p>◇最初から200字程度にするのではなく、400字から200字に絞り込ませたり、マーカーで事例と意見に分けさせたりといった手順を踏むとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達どうしで要約を読み合い、助言し合う。(学習②-2) <p>4 3 根拠を明確にして、意見をまとめる。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の条件に沿って自分の考えを書く。 <p>◇筆者の川上浩司さんがどんな思いでこの文章を書いたか紹介してもよい。</p> <p>→DVD・二次元コード</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不便の価値」のように、固定観念にとらわれずに考えたとき、価値が見いだせるものを挙げる。 ・日常生活や他教科の学習の中で、要約が役立てられる場面を考えてみる。 <p>◇他教科や「総合的な学習の時間」では、テーマに沿った調査活動を行うことが多い。調査結果を発表する際、重要な部分や伝えたい部分を選択し、自分なりの要約をした経験がこれまでもあることに気づかせたい。</p>	<p>理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→要約するための情報の整理のしかたを理解し、自分の考えをまとめるときに要約や引用を明確に示している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。(C(1)オ) →賛成か反対か、立場を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げなが、意見をまとめて書いている。 <p>【態】積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>
12月	<p>助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く</p> <p>2時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	1-2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を選び、内容や魅力を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を選び、P187「作品を分析するときの観点」を用いて分析する。 <p>◇思考ツールを用いて分析させるのもよい。</p> <p>→P9「思考の地図」</p> <p>2 どの観点から論じるかを決め、書評を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P187「書評に使う言葉」「書評の例」を参考に、観点を決め、400字程度で書く。 <p>→P32「情報整理のレッスン 比較・分類」</p> <p>→P80「言葉を集めよう」</p> <p>→P120「読み手の立場に立つ」</p> <p>→P300「資」「語彙を豊かに」</p> <p>→他美術・音楽鑑賞文</p> <p>3 友達どうしで書評を読み、助言し合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を分析するときの観点を決め、「書評に使う言葉」を利用して、書評を書くことができたか。 ・友達の書評を読み、助言し合うことができたか。 	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)</p> <p>→書評を書き、助言し合う活動を通して、読書の意義を理解している。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</p> <p>→読み手からの助言を踏まえて、自分の書いた書評のよい点や改善点を見つけている。</p> <p>【態】読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を進んで見だし、学習課題に沿って書評を書き、助言し合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
12月	漢字に親しもう4 1時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P258「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P302[資]「一年生で学習した漢字」 →P317[資]「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P255「[練習]小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
12月	文法への扉2 言葉の関係を考えよう 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P189の導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。 ・わかりやすく伝えるためには文節どうしの関係を理解する必要があることに気づく。 2 P242-246文法2「文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」を理解する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解したことを確認する。 ・P246「書くことに生かす」を読み、あいまいな文の推敲に生かせることを知る。	【知・技】 単語の類別について理解している。(1)エ) →「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」について、理解を深めている。 【態】 単語の類別を理解するために、これまでの学習を生かして、積極的にその前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。
読書に親しむ				
12月	考える人になろう 君たちはどう生きるか たのしい制約 読書案内 本の世界を広げよう 1時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「君たちはどう生きるか」「たのしい制約」の文章を読み、筆者のものの見方や考え方を捉える。 ・筆者のものの見方や考え方が表れている部分に線を引く。 →P292[資]「読書感想文の書き方」 ◇疑問や悩みを解決するためのヒントや、新しい発想、考え方が表れている部分に線を引き、その部分を根拠にグループで発表し合うとよい。 2 文章を読んで考えたことをグループで発表し合う。 →P54「話の構成を工夫しよう」 →P116「聞き上手になろう」 ◇スピーチのしかた、話の聞き方の学習が定着しているかどうかを、この学習で確かめる授業構想もあるだろう。 ◇読書の意義を理解させる活動である。読書案内と、学校図書館の蔵書をリンクさせるなどして、読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを実感させたい。 ◇「続きはこちら」を読み、学校図書館や地域の図書館に行って続きを読んだり、同じ筆者が書いた別の作品や「君たちはどう生きるか」の漫画を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。 →P90, 194「本の世界を広げよう」	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →読書の意義(=読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこと)を理解している。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) →筆者のものの見方や考え方が表れている部分に線を引き、考えたことをグループで発表し合う活動を通して、自分の理解を確かなものにしていく。 【態】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、これまでの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
12月	<p>季節のしおり 冬</p> <p>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・雪にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ詩や俳句、文章の一説を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p> <p>◇P68「詩の世界」、P186「助言を自分の文章に生かそう」、P220「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)</p> <p>→冬に関わる言葉にふれ、それぞれの冬の情景を想像している。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 自分を見つめる				
1月	<p>少年の日の思い出</p> <p>【書く】別の人物の視点から文章を書き換えよう</p> <p>6時間(読④書②)</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ◇文章の中での語句の意味に注意させる。 <p>2 作品の展開を捉える。(学習①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語り手の転換に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。 ・時間、場所、出来事に着目しながら、後半をいくつかの場面に分け、概要を短くまとめる。 →P212窓「語り手に着目する」 <p>3 「僕」の心情の変化をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」から見た「エーミール」の人物が描写されている部分を探して抜き出す。(学習②-1) ・クジャクヤママユのうわさを聞いてから、盗み、壊すまでの「僕」の心情の変化をまとめる。(学習②-2) ・最後に収集したちょうを潰す「僕」の行動を基に心情を捉える。(学習②-3) ◇作品に使われている「熱情」という言葉について考え、読み取りの手立てとするとよい。 →P213言葉 <p>4 別の人物の視点から文章を書き換える。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物を決め、書き換える場面を選び、創作する。 ◇「母」「エーミール」以外にも、「作品前半の語り手」など、幾つかの視点を与えるとよい。 ・書き上げた文章を読み合い、感想や意見、作品や登場人物について発表し合う。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」の考え方や感じ方について、共感することや疑問に思うところを話し合う。 ・別の登場人物の視点も踏まえて読むことで、自分の考えや作品の印象はどのように変わったか、挙げる。 	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →別の人物を選び、その人物の心情や行動が明確になるように構成や展開を工夫して書いている。 <p>【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。</p>
1月	<p>漢字に親しもう5</p> <p>1時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P258「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P302窓「一年生で学習した漢字」 →P317窓「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P255「[練習]小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。 	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
1月	文法への扉3 単語の性質を見つけよう 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P189の例題に取り組み、単語の性質について考える。 ・単語を組み合わせる過程で、性質の違いに気づき、それによって分類できることを理解する。 2 P247-250文法3「単語の分類」を読み、「自立語と付属語」、「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ◇必要に応じて、P251-254の活用表を用いて理解を深めさせる。	【知・技】 単語の類別について理解している。(1)エ →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
1月	随筆二編 2時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 語句や表現の工夫に着目する。(学習①) ・印象に残った語句や表現を挙げる。 ◇情感のある表現に着目させ、語感を磨き語彙を豊かにしていきたい。 ◇「印象に残った語句や表現」で伝わりにくい場合には、「情感のある表現」と指示することも考えられる。「空はどのように描写されているだろう」「父親とのやり取りで、しみじみとしたよさを感じる部分はどこだろう」などの指示に置き換えると、さらにわかりやすくなる。 →P196「季節のしおり 冬 雪にまつわる言葉」 →P81「言葉を集めよう 紹介文の例」 →P99「大人になれなかった弟たちに……」(母への思いの描写) 2 3 筆者の考えや思いについて話し合う。(学習②) ・筆者が「風花」ではなく「空」という題名を付けたのはなぜかを考える。(学習②-1) ・「えんぼう」という言葉は、幼い「私」にとってどのような意味をもっていたと筆者は考えているか、話し合う。(学習②-2) ◇「空」は自然の美を感じた経験、「えんぼう」は言葉についての古い記憶について述べている点を押さえたい。 4 自分の体験を振り返って伝え合う。(学習③) ・自分自身の体験を振り返り、忘れられない「自然の美しさ」や「言葉」について伝え合う。 →P219窓「随筆を味わう」 →P264資「文学的な文章を読むために」 ◇P220「構成や描写を工夫して書こう」の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。 5 学習を振り返る。 ・印象に残った語句や表現について話し合う。 ・筆者の思いや考えについて共感するところなど、随筆を読むことで生まれた感想を交流する。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →「空の描写」や「父親とのやりとり」がどのように表現されているかを理解している。 【思・判・表】 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面の展開や描写に着目しながら、筆者の「空」についての思いや「父親」への思いを捉えている。 【態】 進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
2月	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く 4時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 随筆の題材を選ぶ。 ・随筆に取り上げたい体験を思い出し、一つ選ぶ。 ◇P220-221下段「体験から思い出す」「テーマから思い出す」を参考にさせるとよい。 →P216「随筆二編」 →P272資「発想を広げる」	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
振り返り				
3月	<p>学習を振り返ろう</p> <p>3時間（読①話聞①書①）</p> <p>◎比較や分類，関係づけなどの情報の整理のしかた，引用のしかたや出典の示し方について理解を深め，それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎相手の反応を踏まえながら，自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎根拠を明確にしながら，自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み，理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど，事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	1	<p>1 P260の説明文を読み，学習課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網走地方気象台の観測記録から，どんな事実が明らかになったか，二つに分けて書く。 ・「流氷の減少は，人類に対する自然からの警告かもしれない。」について。どのような警告かを考えて書く。 <p>→P46「ちょっと立ち止まって」</p> <p>→P126『言葉』をもつ鳥，シジュウカラ</p> <p>◇「つなぐ」を読み，事実と意見を読み分けること，接続語や文末表現に着目しながら読み進めることの大切さを確認させたい。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較や分類，関係づけなどの情報の整理のしかた，引用のしかたや出典の示し方について理解を深め，それらを使っている。(2)イ) →曲名と歌の一節を引用する方法を理解している。 ・共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ) →課題にある方言の例を読み，共通語と方言の果たす役割について理解している。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において，文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握している。(C(1)ア) →温暖化による流氷の減少が，環境に与える影響について，網走気象台の観測記録からわかった事実を二つに分けて書いている。 ・「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) →「……という警告。」で終わる形になるように，筆者の示した情報と自分の考えを結び付けて書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において，相手の反応を踏まえながら，自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →話すときは，聞き手の反応を踏まえて，伝えたいことが伝わるように表現を工夫している。 ・「書くこと」において，根拠を明確にしながら，自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →卒業式で歌ったり聞いたりしたい歌について，自分の思いや考えを繰り返すだけでなく，根拠となる事例を挙げて文章を書いている。 <p>【態】 今までの学習を生かして，それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。</p>
2	<p>2 P261の方言に関するスピーチを聞き，学習課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飲まさる」についてまとめる。 ・「このように」からはじまる段落の言い換え表現を考える。 <p>◇教科書の文章を読ませてもよいが，音声を開かせてメモを取らせたいほうが望ましい。</p> <p>→DVD・二次元コード</p> <p>→P54「話の構成を工夫しよう」</p> <p>→P121「言葉2 方言と共通語」</p> <p>◇「つなぐ」を読み，紹介や報告をわかりやすく伝える際の工夫について確認するとよい。</p>			
3	<p>3 P262の卒業ソングに関する新聞記事を読み，学習課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の卒業ソングの傾向として挙げられることを，教科書の空欄に書き込む。 ・卒業式でどんな歌を歌ったり聞いたりしたいかを，「条件①」「条件②」に従って書く。 <p>→P64「情報を引用しよう」</p> <p>→P138「根拠を示して説明しよう」</p> <p>◇「つなぐ」を読み，学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>			